

市議会6月定例会 市長所信



市議会令和4年6月定例会が、6月6日から24日までの19日間の日程で開催されました。開会日に、当面する市政の重要課題について、表原市長が所信を表明しました。抜粋して要旨部分のみを掲載します。

ウクライナ人道危機 救援金について

本市では、ウクライナへの人道的支援の取組として、3月18日から5月27日までの間、市役所に募金箱を設置し、市民の皆さまにご協力を呼び掛けてまいりました。

集まりました救援金48万3353円は、日本赤十字社徳島県支部へ送金し、ウクライナでの人道危機対応などに役立てられることとなります。

ご協力いただきました皆さまに心からお礼申し上げます。

なお、募金箱は、引き続き9月27日まで設置し、ご協力を呼び掛けてまいりますので、皆さまの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

子育て世帯独自支援金の創設

令和3年度子育て世帯への臨時特別給付金の支給が受けられなかった方のうち、一定の要件を満たす世帯について、養育する子ども1人につき10万円を支給します。

図書館機能を核とした 阿南駅周辺の賑わいづくり

5月21日に、市民の皆さまと共にこれからの新しい図書館の姿について考える「図書館フォーラム」を開催し、約80人の方にご参加いただきました。

基調講演では、愛知工業大学工学部建築学科の中井孝幸教授から、さまざまな事例の特色や活動状況の具体的内容について、ご自身の研究成果を交えてお話しいただき、参加いただいた皆さまからは、驚きとともに阿南市の新しい図書館への夢が広がったというお声を頂きました。

本年度においては、図書館機能を核とした駅周辺の賑わいづくりに向けて、まちづくりの専門家による講演、パネルディスカッション等を主な内容とする「まちづくりシンポジウム」も予定しており、まちづくりのイメージを市民の皆さまと共有しつつ、ビジョンの方針を踏まえた「まちづくり基本計画」の策定に着手し、市民会館解体後の跡地をはじめとする公共空間における導入機能についてさらに検討を進めてまいります。

なお、基本計画の策定に当たり、都市計画、建築、環境、図書館等、多様な視点からご意見を頂きたいと考えており、こうした分野を専門とする有識者等で構成する「阿南市魅力ある都市づくり審議会」を新たに

具体的には、令和3年9月30日の基準日時点で0歳から高校3年生までの児童および令和3年10月1日から令和4年3月31日までに出生した新生児で、令和2年中の所得額が所得制限限度額を超えていたことにより令和3年度子育て世帯への臨時特別給付金が支給されなかった方のうち、令和3年中の所得額で判定すれば支給要件を満たす方が養育する児童を支給対象とします。

支給時期等は、令和4年10月振込の児童手当と併せて支給を開始する予定としており、児童手当受給者は申請不要としますが、高校生のみ養育されている方や、公務員の方は、申請書を提出していただく必要があります。詳細は、広報あなんおよび市ホームページを通じて、8月初旬までにご案内します。

学校給食での地産地消の 食育を推進

阿南市産の畜産物や水産物、野菜等を学校給食に活用することとし、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、需要の減少など影響の長期化が懸念されている、地元の生産

設置し、幅広い視点から未来のまちづくりについて検討を行ってまいります。

カーボンニュートラルへの取組

本市は、令和3年8月に県下の自治体としていち早くゼロカーボンシティ宣言を行いました。2050年カーボンニュートラルの実現に向け、国や県の枠組みを踏まえ、他市をリードする先進的な取組にチャレンジしてまいります。その取組の指針となる阿南市環境保全率先行動計画（区域施策編）を見直すため、5月20日に庁内組織である阿南市環境保全推進会議を開催。近年における国・県の動向や改正地球温暖化対策推進法で規定された、地方自治体等が果たす役割などについて情報を共有するとともに、まずは、短期的に集中して取り組む施策や指標を明確にして実践し、確実に成果を上げていくことを確認しました。

今後は、庁内での議論に加え、7月4日に、外部の有識者等で構成する阿南市環境保全推進協議会を開催し、地元的主要企業をはじめ、エネルギーの専門家や金融機関、学識経験者、市民団体等の皆さまからご意見、ご提案を頂きながら、年内を目途に短期的な実践目標を取りまとめ、それらに中・長期的な視点を加えて、区域施策編に反映させてまいります。

者の皆さまを支援すると共に、児童生徒等の市産食材への関心を高め、地元特産品および地域の産業について学ぶ食育を推進します。その他、保育所・幼稚園・小学校等の新型コロナウイルスの感染拡大の防止対策事業やコロナ禍における原油価格・物価高騰の中でも、栄養バランスや量を保った学校給食が実施されるようにいたします。

北の脇海水浴場、 淡島海水浴場の開設

北の脇海水浴場、淡島海水浴場は、新型コロナウイルスの影響により2年間にわたり開設を見合わせており、「今年こそは何とか開設してほしい」との声が寄せられていました。

私としても、「阿南の夏」の象徴でもあるスポットを開放すべく前向きに検討を重ねた結果、今夏は、県下の他の海水浴場に先駆け、感染症対策ならびに安全対策をより強化した上で開設を行い、アフターコロナに向けた地域の経済回復と魅力発信の契機にしたいと考えています。

トライアル・サウンディング事業 について

公共施設の有効活用および市民の利便性向上等を目的として、現在、市役所庁舎および科学センター、中林保育所の3施設を対象に、民間事業者等からの提案による暫定利用の募集を行っています。

4月26日には、第1弾として、食育推進・農業体験に取り組む生産者と障がい者就労支援事業者とのコラボレーションによる「農福マルシェ」を市役所庁舎1階のあなんフォーラムで開催し、新鮮な朝どれ野菜やお弁当の販売を実施しました。

また、5月3日から5日までの3日間、子ども科学フェスティバルの開催に合わせ、キッチンカーや市内飲食店によるお弁当の販売等を行いました。当日は、市の公共施設マネジメント推進チームのメンバーも数名参加し、地域のプレイヤーである民間事業者と、施設の活用方法や事業の効果的な周知方法等について意見交換を行うなど、公共施設を魅力ある空間とするため、積極的に関わっています。

今後は、本事業で得た民間事業者の意向、市民の反応、市職員が培ったノウハウを生かし、公民連携での公共施設の有効活用方策の確立に向けさらに取組を進化させてまいります。

全文は、市ホームページで公開しています。また、後日作成する市議会会議録は、市立図書館等で閲覧することができます。